

# 子どもの日本語教育研究会 第4回研究会



**ラウンドテーブル3  
学校・地域支援の連携**

2019.10.12 地球っ子クラブ2000 高柳なな枝  
東京都港区立筈小学校 <http://chikyukkoclub2000.com/>

1

## いっしょに 学びましょう!

①② **地球っ子クラブ2000**  
親子の日本語学習で、子どもの日本語力を伸ばします。

③ **多文化子育ての C.C.C.C. Cocorico**  
保護者同士で、子どもの日本語学習をサポートし合います。

④ **多文化子育ての C.C.C.C. Cocorico**  
保護者同士で、子どもの日本語学習をサポートし合います。



① 地球っ子クラブ2000 講習  
第2・第4講習  
13:30~15:30

② 地球っ子クラブ2000 土曜  
親子の日本語学習  
10:00~12:00

③ 多文化子育ての C.C.C.C. Cocorico  
第1・第3・第5講習  
10:00~14:00

④ 多文化子育ての C.C.C.C. Cocorico  
第2・第4講習  
10:30~13:30

さいたま市外国人住民 23,095人 (1.79%) 2018年3月現在

2

- 就学前日本語講座
- お弁当作り、学校からの通知...

外国人親子だけが頑張ればよいの?

外国人親子

小学校・保育園

受け入れ側の意識・配慮も必要!  
小学校・保育園などに働きかけ、連携する必要がある。

地球っ子クラブ2000

3

### 「多文化の子どもを支える地域の協議会」

- 2016年～
- 1年に2回ずつ開催

A 保育園

地球っ子

公民館

教育委員会

B 保育園

協議会

C 小学校

D 小学校

外国籍園児・児童の割合 (2017年度)	
A 保育園	11.2%
B 保育園	6.25%
C 小学校	6.32%
D 小学校	16.4%

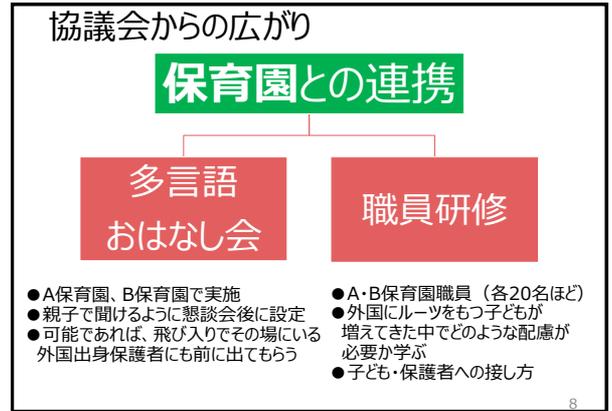
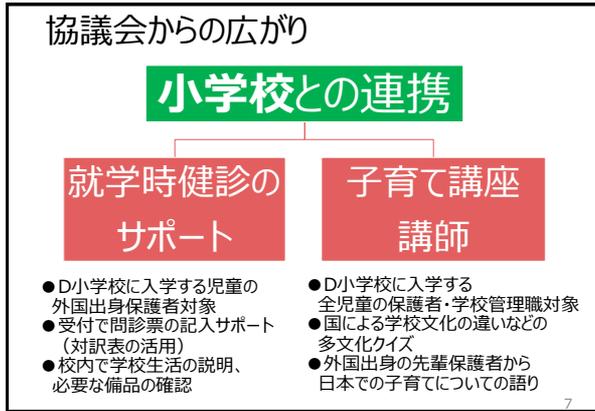
4

協議会で挙げた課題例	課題に対する意見
人や国による違いもあると思うが、学区外就学や帰国に際しての連絡など、こちらが「当然わかっているだろう」と思うことが共通理解としてない。	文化が違うのでわからなくて当然。わかるように伝える必要がある。「説明した」と「伝わった」は違う。
ことばではなく、日本のシステムや文化がわからない。何か相談したい時に相談できる場、友人が必要なのではないか。	わからなかったときに質問できる場所として日本語教室を紹介してもらってはどうか。
保護者は日本語がわからない。スマホの翻訳アプリを使っているが、通じないこともある。	子どもが通訳をすることやスマホの翻訳機能では、正しいかどうか日本人は確認できないので、誤訳であっても「伝わっている」と勘違いしてしまう。実物を提示したり、やさしい日本語で会話をしたりすると効果的である。

5

協議会で挙げた課題例	課題に対する意見
外国出身保護者の、授業参観や懇談会の参加率が低い。	生活や仕事で学校行事に参加できない保護者もいる。
子どもはすぐに日本語で話せるようになる。	一方で「学校に行ってもどうせわからない」「学校に行きたくない」と思わせない配慮が <b>就学時健診</b> から必要。
一方で保護者が日本語が理解できず、学校に来なかったり、手紙が読めなかったりすることが多く見られる。	<b>多言語おはなし会</b> などを行い、外国出身の保護者が少しでも活躍できる場を作るなど、外国出身の保護者が気後れせずに、保育園や小学校に行ける取組が行えないだろうか。
<b>日本人保護者にも</b> 外国人親子のことを理解してもらい、互いにわかり合う必要性がある。	入学説明会「子育て講座」の講師を地球っ子にお願いしたい!

6



### 成果

- 多文化の子どもに関わる教育について保育園・小学校と意見交換したり、受け入れ側に理解を深めてもらう機会がもてた。
- 協議会から発展した保育園・学校との連携事業により、外国出身保護者が主体的に子育てや教育にあたる一歩が踏み出せたとと言える。
- 人的リソースの活用：講座講師や対訳表作成において外国出身先輩保護者の活躍が見られた。
- その後、中学校も協議会に参加してくれるようになり、地域一丸となった長期的なサポート体制が整いつつある。

9

### 課題

- 今回の取組は外国人親子が比較的多く住む地域での試み。外国籍児童生徒が少ない地域や学校でもこのような取組が行えるよう、実践の広がりが望まれる。
- つながれない親子とどうつながっていくか。ソーシャルワーカーなどとの連携も必要か。

10